梅花山

成就院（じょうじゅいん）

笹下4丁目

開　基　武蔵国風土記によると、元々は法相宗曲田山帯行寺と称していたが、建保２年(1214・鎌倉前期)、時の住職「祐玄法印」が親鸞聖人の直弟子となり真宗に改宗、以来祐玄法印を開基と仰ぎ、それ以来790年の歴史を刻む。
江戸時代中期までは真宗西本願寺派、元紋３年(1738)高田派に転派
昭和２９年までは梅花山成就坊と称していた。
尚、今の堂宇は明治２３年４月に再築されたもの。

宗　派　真宗高田派

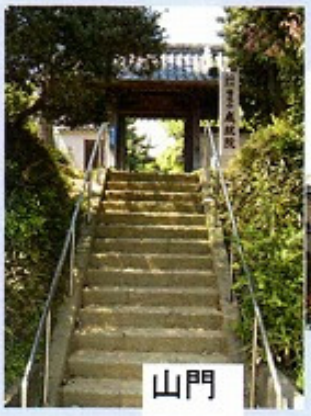
本　尊　阿弥陀如来

お唱え　南無阿弥陀仏

いわれ
- 成就院のあるこの地は、小田原北条氏の家臣であった間宮氏の本城である笹下城のあった所と伝えられている。洋光台の開発が行われた為、事実関係は不明になり伝承のみで、その為「幻の笹下城」と呼ばれるようになった。
- 樹齢780年の槙（マキ）は市指定銘木で、嘉永2年の火災で幹の片面は消失、人は「片身の槙」と呼んでいる
- 山門の横に句碑が立っています、これは笹下の若者たちの戦死者の霊を慰める鎮魂の碑で、碑文は横浜で有名な俳人「大野林火」にお願いし、戦後の進駐軍の占領下意味深い句が詠まれています。

もず　しょうらい　しず
猛り鵙　松籟にいま　鎮まりぬ　林火

秋が訪れ、鵙が大きな松の木の枝でキキキッと甲高い声を張り上げて鳴いている
秋風が松の枝をゆらし、音を奏でて吹きぬけてゆく、鵙の高鳴きが鎮まった。
若き御霊よこの故郷の地に安らかに眠れ！　平和よ永遠に！


山門

参道

本堂

鎮魂の碑

鐘楼